



協会だより 第2号  
令和3年10月8日  
会長 佐藤 達夫

発行 岩手県公立高等学校事務職員協会

## 第73回全国高等学校事務職員研究大会（愛知大会）

### 「教育の改革と発展を目指して」～学校経営事務の充実～

今年度の全国大会は、オンデマンドにより配信開催され、岩手県からは4校の方々が視聴参加しました。試聴参加した方々から感想を寄せていただきましたので紹介します。

#### 第73回全国公立高等学校事務職員研究大会に参加して

釜石商工高等学校

事務長心得 鈴木 勇悦さん

大会要項・研究収録の巻頭言には「参加者の皆様、お待たせいたしました。紆余曲折を経て、愛知大会が開催できますことは、とても大きな喜びであります」との記載で、実行委員長の挨拶が始まっています。

愛知大会は、本来であればオリンピックで日本中が盛り上がっているであろう、令和2年7月に開催予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、令和2年3月の全国一斉休校とともに同大会も延期となり、令和3年8月に開催延期が決定されました。この時、中止か延期か、愛知県実行委員会のなかで大きな葛藤があったとされています。愛知大会を中止とし、予定されている次期開催県へお願いする選択肢もあったようですが、延期されたオリンピックへの影響を考え、また、これまでの研究大会開催のための準備を無駄にしないため延期を選択。しかし、その後も新型コロナウイルスの感染症は収束の見通しが立たず、感染拡大の危険性を極力抑えるため、参集方式を諦め動画配信による大会開催を選択したとのことです。

前置きが長くなりましたが、本研究大会はパネルディスカッションやグループワークは行われず、文科省講話、記念講演、研究発表8本の構成で動画配信されています。この中から、研究発表を視聴しての感想を記載したいと思います。

準備期間短く、音声のみの発表もありましたが、発表の多くがスライドにより説明され、プレゼン機能を使いこなした発表となっています。また、オンデマンド配信のため、自分の都合に合わせて再生を繰り返して視聴出来ることから、少々脳が退化している私でも、研究収録の資料を参照することで理解が進み、参集型と比較して、より効果的な方法と感じました。

その中で、長崎県協会 佐世保・北松・東彼支部研究グループの研究発表「クローズアップ旅費 ～より良い研修を目指して～」は、動画配信により可能となった、今までにない目新しい発表となっています。事例は「部活動引率旅費（荒天により当初の旅行命令によらない旅費）」と「ALTの帰国に係る諸費用について（トランジットを行うもの）」の2本。日常の事務室を舞台とし、若手職員が陥りやすい、対教員とのトラブルの事例を芝居形式で発表しています。

発表にあたり研究グループが基本としたことは、①若手が意見を自由に言えるような雰囲気を作ること。②特定の人への負担が偏ることを避けること。③ベテランが若手に押し付けないこと。④会場を飽きさせないこと、の4点。事例そのものは目新しいものではありませんが、若手職員が目線から、どこの学校でも起こりそうな出来事を切り取り、教員対応の問題点から業務改善のヒントに至るまでを芝居形式で、分かりやすく、飽きさせない内容となっております。

最優秀脚本賞と助演女優賞をあげたいくらい、そんな秀逸な研究発表であったと思います。

さて、今大会はコロナ禍の中で動画配信の形で開催されました。本協会に限らず、他の教育団体の全国大会等においても同様の形で実施されており、今やオンライン研修が標準的となっています。

今大会に参加して、

- ① 出張せずとも研修できた。
- ② オンデマンド型により時間と場所に制限がなくなった。
- ③ 事務室全員が視聴出来た。

等々、メリットがあげられます。

しかし、課題を共有する全国の事務職員との交流や開催地域の慣わしや文化等を直接体感することが叶わず、物足りなさを感じる一端もあります。全国協会長が挨拶の中で「事務職員協会の活動の本旨は、人と人のつながりである」と述べておりますが、次年度はコロナが収束し、参集型の研究大会になることを切に期待して感想を終わります。

## 《水沢高等学校のみなさんより》

### 記念講演感想

演題「カレーなる私の人生」 講師 宗次 徳二氏

事務長 富手 明美さん

今を時めく『カレーハウス CoCo 壺番屋』創業者 宗次氏の幼少期から現在に至るまでの人生模様を軽妙な口調で話された。

第二次世界大戦後の混乱期に生まれ、実の両親との生き別れ・養父母とのいきさつ等、ご本人にとって、生きる・生活していくという現実は「過酷」以外表現する言葉が見つからないくらい大変なものであったろうと感じた。そういった環境に置かれながらも、卑屈にならず自分の気持ちを常にポジティブに持ち続けた宗次氏は相当な根性の持ち主だと思う。

「世の中のために心を込めて仕事をする」・「現場主義」を常にモットーとして貫き通し、様々な業種を経た後「カレーハウス CoCo 壺番屋」を創業、53歳で引退されたとのことであった。レトルトカレーの商品用写真撮影時のエピソード、カレーの具を見栄えよく盛ることを断わり、ありのままにこだわる姿勢はなかなか真似ができないことだと思う。シンプルイズ＝ベスト、理想ではあるが自分に置き換えて考えると実現は難しい・・・

現在のコロナ禍にあって助け合いの時代を旗印に特定非営利活動法人を立ち上げ、スポーツ・文化・芸術・福祉等様々なジャンルへの支援活動及び学校への楽器寄贈活動他、生涯現役として精力的に活動されている姿勢は大いに見習いたいと思う。

世の中のために真心を込めて仕事をする気概を私も持ち続けたいと改めて思った。

## 第1分科会

### 学校事務職員とAI（人工知能）～AIと共存していく学校事務職員とは～

主事 中村 友祐さん

AIに仕事を奪われるという言葉をご数年よく耳にする。学校事務もその対象であり、この先数十年働く私にとっては不安なことだ。実際就職活動をする際、AIに影響を受ける職種を調べたこともあった。

今回の研究大会を視聴して学校事務が何を目指していくべきなのかとても参考になった。AIが苦手とする対話や創造、課題を見つけること、探求心など事務をつかさどる者として身に着ける必要があると思った。

動画の中で楽をするためのAIではなく、より高い質を求めるためのAIが必要になると言っていた。まったくその通りである。業務をAIと分担して仕事量を減らすのが目的でもあるが、教育に力を注げる時間が増えることが一番の利点である。AIにできることは分担し、人だからできることに力を入れ、学校教育の質を向上させることが最も重要である。質を向上させるためのAIを主とする技術発展はとても楽しみで、大いに期待している。

もしかしたらSF映画のようにAIが身近になりAIが人の上に立つ世界が来るかもしれない。しかしそれは楽を求めた結果であり、人だからできることを磨き、大切に高い質を求めた先には共存があるのではないかと思う。AIについてしっかり考えたのは初めてで期待と不安がどちらも様々あった。ならば不安を少なくするためにどうすればいいのか、ここから数年かけてできることをコツコツと積み重ねていきたい。

## 第2分科会

### 「業務の改善と効率化」～実践と提案～

主任 千田 愛さん

第2分科会は「業務の改善と効率化～実践と提案～」をメインテーマとし、3県の発表が行われた。

まずは埼玉県の「エコ」をテーマにした発表については、校内の再利用できる不要物品に目をむけ、消耗品の再利用ボックスを作成するなど、「まだ使える物」の現状を把握する工夫について研究を行っていた。令達される予算に限界があることから、いかに今あるものを有効に活用するかを、発表者が若い3名ということもあり新しい視点で取り組んでいたように感じた。

奈良県の「事務職員協会による事務改善の取り組み」については、奈良県の人事異動の仕組みにより、改善工夫が個々のレベルにとどまり、全体の業務効率の向上に繋がらないという問題点があったことから、全体の業務向上のため事務職員協会が「各校へのアンケート」を実施したうえで改善点を把握し、教育委員会へ要望書を提出し働きかけを実施していた。システムや業務内容は若干違うが、協会が主となり、業務改善に取り組むことで個々の成果に繋がっており、本県でも同じように目指していきたいと感じた。

最後に、岡山県の「晴れの国おかやまを襲った豪雨災害」について。本県でも東日本大震災、平成28年台風、令和元年台風と、災害が続いている中で、学校事務として対応に奮闘した方々がいる。その方々の話を聞き、また今回の発表を聞く中で、自分がいざ同じ立場に直面した場合にどれくらい対応できるか、自分の頭で考え行動できるか、事務職員として何ができるかを再度考えるきっかけとなった。どの地域であっても、いつどんな災害が起きるかわからない、一日も早く生徒が安全安心して暮らせるよう事務職員として尽力した経過がよくわかり、大変勉強になった研究であった。

オンラインでの研究発表は、要点を繰り返し聞くことができ、またどの県も、写真や図等を工夫した内容となっており、大変参考になった。

## 第3分科会

### 「今日的課題への提言」～多様な視点からの学校づくりを考える～

主任主査 池田 福子さん

#### 「初任者層研修会の講師を取り巻く環境の改善」

宮城県では新事務職員の資質向上を図るための研修を行うことを事務職員協会の支部単位で行っており、その研修内容も本県であれば、人事委員会や教育委員会主催の初任者研修で行っているようなものから実務研修まで幅広く、実施回数も全て合わせて6回程度ということですので、このとおり実施していれば活発に協会活動が行われているということになります。そして、大崎支部ではその研修会の講師と運営を行うことを学ぶ機会ととらえ専ら若手職員が担っており、そのために起こった研修会を運営する上での体制の問題点、講師を取り巻く環境を改善する取り組みについての研究発表でした。注目すべき点は、様々な問題点の中から改善点を導き出した結果、研修会の指導案を作成し、支部研修幹事と内容を検討することで研修会講師だけに内容を一任することがなくなり、講師の不安を解消し研修の目的も明確となり、さらに実施した研修内容の引継ぎと改善が容易にできるということです。本県でも新採用者や転入職員の増加で高校事務の経験が浅い職員が増えているため、手厚い研修体制の構築が必要であると思います。研修を事務職員協会にゆだねられることが良いことだとは思いますが、インプットだけではなくアウトプットすることで、さらに理解が深まり資質向上につながり、スキ

ルアップが見込める有効な取り組みだと感じました。

「県立学校避難所対応マニュアル作成の手引」

富山県は災害が少ない地域ではあるが、実際に避難所を開設した学校での例をもとに、いつ災害が起きても困らないよう各学校で対応マニュアル作成をするための手引きを作成した発表内容でした。実際に避難所を開設するのは市町村ですが、学校を避難所として使用する際には、学校として教職員も関わらざるを得ないことが多くあり、市町村の対応が遅れることも想定されます。その際に、避難所運営マニュアルが各学校で作成されていれば迷うことなく迅速な対応ができるということで、実際にマニュアルを作成するためのテンプレート方式の手引きを作成し、容易にマニュアルを作成できるようになったというものです。その手引きは、事前準備と災害発生から3日程度の初動期での対応に重点をおいたものですが、避難所レイアウトなどの細かい部分まで考えておくことで、教職員の災害対応への意識を高めることができるものであり、のちに一部避難所を開設したまま学校を再開することも念頭に置いた避難所運営ができるというものです。

本県では未曾有の大災害の東日本大震災津波、台風や大雨での災害を経験し、実際に避難所開設を行った学校もありますが、現在ではその時のノウハウが今も確実に引き継がれているとは言いがたい状態にあると感じます。その当時、経験した事務職員の方々が教えてくださったことを研修会として定期的に共有し、当事者意識を持ち続けることが大切だと感じました。

令和3年度全国公立高等学校事務職員協会功労者表彰

今年度は14名の方々が受賞されました。

受賞された皆様には、全国協会長より感謝状が郵送により授与されています。

大変おめでとうございます。

盛岡第二高等学校	高橋 健司	様
杜陵高等学校	日影 綾子	様
杜陵高等学校	斉藤 直人	様
盛岡工業高等学校	金澤 利架子	様
沼宮内高等学校	村上 恵利子	様
盛岡ひがし支援学校	三好 満明	様
花巻南高等学校	樋口 英樹	様
花北青雲高等学校	小岩 一成	様
水沢農業高等学校	中倉 渉	様
花泉高等学校	佐藤 律子	様
大東高等学校	小野寺 博美	様
宮古高等学校	佐々木 勝幸	様
宮古商工高等学校	千葉 哲也	様
宮古水産高等学校	内館 章太郎	様



～つながろう今、つなげよう未来に～